

島しょ部海底光ファイバーケーブル整備に関する今後の方針検討委員会
(第1回) 議事要旨

1 日時

令和8年3月9日(月) 15:00~17:00

2 場所

東京都庁第二本庁舎 10 階 215 会議室及びWEB 会議システム

3 出席者(敬称略)

(1) 検討委員会委員

- ・東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
田島 芳満 (委員長)
- ・東京農工大学 総合情報メディアセンター 教授
升屋 正人 (副委員長)
- ・東京大学 地震研究所附属 火山噴火予知研究センター 教授
市原 美恵 ※欠席
- ・東京都市大学 理工学部 電気電子通信工学科 准教授
林 正博
- ・淑徳大学 コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 准教授 (当時)
松野 由希

(2) オブザーバー

- ・東京都総務局 行政部
- ・東京都総務局 総合防災部
- ・NTT 東日本(株) ビジネスイノベーション本部
- ・(株)NTT-ME 東京ブロック統括本部

(3) 事務局

東京都デジタルサービス局 デジタルサービス推進部 つながる東京推進課

4 議事

- (1) 開会
- (2) 出席者の紹介（委員・オブザーバー）
- (3) 委員会設置要綱について
- (4) 委員長の選出
 - ・田島委員が委員長に選出された。
 - ・升屋委員が副委員長に選出された。
- (5) 島しょ部海底光ファイバーケーブル整備に関する今後の方針案に対する検討

<主な意見>

- ・ケーブルルートの二重化（ループ化）は冗長性を高めるという観点で理解できる。
 - ・他県ではループ化しているのにケーブルが二か所損傷して通信障害が発生した事例もあり、ループ化したから大丈夫ということではなく、3ルートの通信経路も理想に置いた上で、費用対効果を考慮した次善策としてループを位置付けるべきである。
 - ・ループに障害が発生した際のために、バックアップの通信手段として衛星回線等を確保しておくべきである。
 - ・ループ化しても、同一箇所で陸揚げする場合、そこが損傷すると通信障害が発生する。
 - ・過去の通信障害は、陸揚げ部で損傷したことが原因になっていること多く、より安定性を高める観点から、島への陸揚げルートとは別に沖合でバイパスするルート構成の考え方もある。
 - ・更新が必要になるのはケーブル劣化だけが要因ではない。技術革新や利用形態の変化を踏まえ、20～25年単位でシステム全体を見直す必要がある。
 - ・いずれはケーブルを張り替える必要があり、通信ケーブルが1ルートのみの場合には張り替えの際に一時的に通信が途切れる。ループ化しておけば通信が途切れずに工事ができる。
 - ・ループ化されていないケーブルルートについては、後からケーブルを追加してループ化し、その後、片ルートずつ交互に交換していくことで常にループが維持できる。
- (6) 閉会
 - 第2回委員会では、今回頂いたご意見を踏まえて、今後の方針案作成に向けた方向性や考え方について、専門的なご意見を聴取する予定である。

以上